地方自治のガバナンスを問う

早稲田大学大学院教授　片山（かたやま）善博（よしひろ）

*学校の休校要請にみる安倍政権の体質
*きちんと正論が言えない地方自治体
*常態化している指示待ちと思考停止
*いまだに教師がしている給食費の徴収
*ガバナンス不在の教育委員会
*親方日の丸依存が生む財政収支の悪化
*首長が多選される背景
*時代錯誤の地方議会運営
*必要な市民に開かれた地方議会
*地域本位で考える習慣が不可欠

柴生田　それでは開会いたします。（拍手）

今日は参加者が少なくなりまして、たいへん残念でございますが、早稲田大学の片山先生においでいただきました。皆様ご存じのとおり、51年にお生まれになって東京大学法学部を出られた後、自治省に入省され、その後、鳥取県知事に出馬され、2期お務めになり、慶應と早稲田で教鞭をとられております。先ほども控室で今の政権についてはたいへん嘆かわしい状況であるというお話を交わしました。ここ数日を見ても政権のあり方が非常に稚拙で危ない。しかも、権力を振りかざす体質が露骨に出てまいりました。今日は地方自治のガバナンスというお話でございますが、政治全般にわたるお話になるかもしれません。ぜひ期待してお聞きいただきたいと思います。それでは片山先生よろしくお願いいたします。（拍手）

学校の休校要請にみる安倍政権の体質

片山　ご紹介いただきました片山であります。今日は今お話のありましたようなとてもクリティカルな状況の中で、あえてこの会を開かれるということで、私も満を持してやってきましたので、今日は皆さん方とともにできるだけ有意義な時間にしたいと思っております。よろしくご協力をお願いいたします。

今日の話は「地方自治のガバナンスを問う」ということで、レジュメを1枚お配りしていると思います。私の専攻分野は地方自治論です。私は大学を出て、先ほどご紹介いただきました